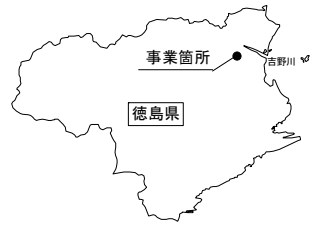
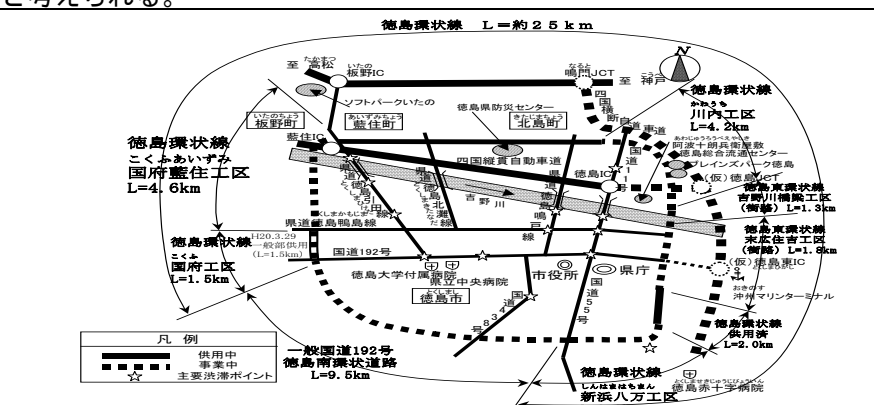


再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局環境安全課
担当課長名：吉崎 収

事業名 地域高規格道路 徳島環状道路 主要地方道 徳島環状線（国府～藍住工区）	事業区分 地方道	事業主 徳島県	
起終点 自：徳島県徳島市国府町池尻 至：徳島県板野郡藍住町東中富		延長 4.6 km	
事業概要 主要地方道徳島環状線は、地域高規格道路「徳島環状道路」の一部を形成し、地域の連携強化を図るなど、徳島市及び周辺地域の交通円滑化に資する基幹的な道路である。 当該工区の整備により、高規格幹線道路四国縦貫道・横断道へのアクセスが向上するとともに、交通の分散により徳島市内の慢性的な渋滞の解消に大きく寄与するものである。			
H14年度事業化		H13年度都市計画決定	H14年度用地着手
全体事業費 520億円		事業進捗率 2%	供用済延長(側道) 0.3 km
計画交通量 本線：25,600台/日、側道：4,600台/日			
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.4	総費用 (残事業)/ (事業全体) 308/320億円 (事業費：306/318億円 維持管理費：2/2億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 446/446億円 (走行時間短縮便益：362/362億円 走行費用減少便益：58/58億円 交通事故減少便益：26/26億円)
	B/C (残事業) 1.4		基準年 平成22年
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.6 (交通量+10%) B/C=1.3 (交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.3 (事業費+10%) B/C=1.6 (事業費-10%) 事業期間変動：B/C=1.4 (事業期間+10%) B/C=1.5 (事業期間-10%)			
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（渋滞損失解消時間 14,155千人・時間/年⇒13,748人・時間/年 407千人時/年減少） ・円滑なモビリティの確保（空港へのアクセス向上が見込まれる 国府町(観音寺付近)～徳島阿波踊り空港 10分短縮） ・国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路整備区間指定 徳島市～板野郡藍住町 H13.12 5km） ・災害への備え（徳島県地域防災計画で指定された2次緊急輸送道路の整備） ・安全で安心できる暮らしの確保（三次医療施設へのアクセス向上 藍住町→徳島県立中央病院 4分短縮）			
関係する地方公共団体等の意見 徳島市長など3市8町村で構成される徳島環状道路建設促進期成同盟会より整備促進の要望を受けている。			
事業評価監視委員会の意見 事業の必要性和費用便益比を勘案し、当該事業の事業継続は妥当である。 徳島県知事の方針：委員会の意見を受けて、事業継続とした。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 沿線自治体の藍住町、北島町においては人口が増加傾向にある。（出典：徳島県統計情報 徳島県HPより） 藍住町：30,484人(H13.1)→33,046人(H22.1)(1.08) 北島町：19,944人(H13.1)→21,628人(H22.1)(1.08)			
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成14年度に事業化され、用地進捗率16%。用地取得完了箇所から側道部を整備（0.3km供用）している。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 事業規模が大きく期間を要している。引き続き用地取得を進めるとともに、早期に事業効果が発揮できるよう事業進捗を図る。			
施設の構造や工法の変更等 コンクリート二次製品や発生材を積極的に活用し、コスト縮減を図っている。			
対応方針		事業継続	
対応方針決定の理由 以上の事業の効果及びコスト縮減等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事の方針等を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。			
事業概要図			
			
凡例 ■ 供用中 ■ 事業中 ☆ 主要渋滞ポイント	凡例 ■ 供用中 ■ 事業中 ☆ 主要渋滞ポイント		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。